

最新情報 会員個人情報

氏名 金古正士氏 享年 86 歳

事項 令和 4 年 3 月 19 日死去

金子氏のプロフィール

特定非営利活動法人フォレストぐんま 21 において設立時(平成 14 年)から 3 期 6 年間監事として役職につきご指導を仰いだ人である。

金古氏は平成 27 年 4 月瑞宝双光章を受章するなど教育界において重鎮である。

奥さん談

昨夜まで元気でいたが今朝起きてくるのが遅いので 2 階のご主人の部屋に行くとベッドから落ちて苦しんでいたのが救急車を呼び病院に急行したが帰らぬ人となった。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

地道な努力



【春の叙勲】群馬県内から60人 - 産経ニュース

政府は「春の叙勲」の受章者を 29 日付で発表した。県内からは、旭日小綬章 4 人、旭日双光章 15 人、旭日単光章 1 人、瑞宝中綬章 1 人、瑞宝小綬章 8 人、瑞宝双光章 17 人、瑞宝単光章 14 人の計 60 人が受章する。瑞宝双光章を受章した元公立小学校長の金古正士さん(79) = 前橋市敷島町 = に喜びの声を聞いた。(浜田慎太郎)



□瑞宝双光章受章 元小学校長 金古正士さん(79)

■「教師改革」で非行なくす

担任の先生から泣けば弱虫と怒鳴られ、むちや竹刀で体罰を振るわれることは日常茶飯事。そんな日々を幼少の国民学校時代に味わった。級長だった 4 年生のときは、長時間机の上に正座をさせられ、足の感覚がなくなったこともあった。

そんな日々を耐えて新制中学校に入学すると、一転、充実した普通の教育を受けることができた。「あのときの体罰はなんだったのか。自分が経験したことを子供たちに味わわせたくない」。これが教師を目指した一つのきっかけだった。

昭和 33 年、新卒教師として前橋市内の小学校に赴任した。37 年に転任した中学校は、当時、けんかや窃盗など生徒の非行が目立っていた。その一因は教師のやる気の無さ。生徒を見下したような扱いをしたり、無関心で奔放にしたり、目に余る光景だった。

そこで、「非行をなくすためには教師が変わらねば」と一念発起。生徒を決して呼び捨てにせず、一緒に満席に励み、部活動では子供たちに熱心に野球を教えた。そのかいあり、少しずつ賛同してくれる教諭も増え、学校の雰囲気は徐々に良くなっていったという。

その後はいくつかの学校を経験し、63 年に小学校の校長に就任、多くの教師の育成にも尽力した。平成 8 年に、約 38 年の教諭生活を終えた。

最近では、自殺やいじめなど子供に関わる悲しいニュースも多いが、「子供たちには必ず内に秘めた宝がある。それを引き出す手伝いをするのも教師の役割だ」と力説する。教育者としての熱いまなざしは今も失われていない。